

平成 21 年 伊賀市消防本部の 火災 救急 救助 の概要

1 火災概要

昨年の火災件数は 67 件で、前年に比べ 18 件の増加となりました。これは、およそ 5.5 日に 1 件の割合で火災が発生したことになります。火災件数は、過去 10 年間で 2 番目に多い件数です。

火災種別ごとにその構成比をみると、建物火災 31 件で全火災の 46%と半数近くを占めています。次いで、その他火災（道路、空地、土手および河川敷の枯草の火災など）17 件で 25%、車両火災 12 件で 18%、林野火災 7 件で 11%の順となっています。

出火原因については、枯草焼きが 14 件、放火・放火の疑いが 11 件、こんろが 6 件、車両の故障・事故などが 6 件、ストーブが 5 件の順となっています。火災による死者は 3 人でいずれも建物火災で発生し、負傷者は 18 人で前年に比べ 12 人も増加しています。

建物火災 31 件のうち、義務化になった住宅用火災警報器を設置していて、警報音により火災に早く気づき火災による被害を最小限にとどめた奏効事例が 1 件あります。反面、住宅用火災警報器を設置していれば被害を軽減できたと思われる火災も目立ちます。住宅用火災警報器の設置がまだのご家庭は、早期の設置をお願いします。

| 項目 | 平成 21 年 | 平成 20 年 | 増 減 | |
|--------|------------|---------|-------|------|
| 火災件数 | 建物火災 | 31 | 25 | 6 |
| | 林野火災 | 7 | 0 | 7 |
| | 車両火災 | 12 | 12 | 0 |
| | その他火災 | 17 | 11 | 6 |
| | 船舶火災 | 0 | 1 | △1 |
| 合計 | 67 | 49 | 18 | |
| 焼損面積 | 建物火災 (㎡) | 2,274 | 3,097 | △823 |
| | 林野火災 (a) | 33 | 0 | 33 |
| 死傷者 | 焼死者 (人) | 3 | 3 | 0 |
| | 負傷者 (人) | 18 | 6 | 12 |
| 主な原因など | 枯草焼き | 14 | 6 | 8 |
| | 車両の故障・事故など | 6 | 10 | △4 |
| | 放火・放火の疑い | 11 | 7 | 4 |
| | たばこ | 2 | 2 | 0 |
| | ストーブ | 5 | 4 | 1 |
| | こんろ | 6 | 6 | 0 |

| 焼損棟数 | 平成 21 年 | 平成 20 年 | 増 減 | |
|------|---------|---------|-----|----|
| 建物火災 | 全 焼 | 16 | 18 | △2 |
| | 半 焼 | 3 | 2 | 1 |
| | 部分焼 | 19 | 7 | 12 |
| | ぼ や | 9 | 15 | △6 |
| | 合計 | 47 | 42 | 5 |
| 罹災世帯 | 25 | 24 | 1 | |
| 罹災人員 | 66 | 75 | △9 | |

2 救急概要

昨年の救急出場件数は 4,481 件であり、前年に比べ 4 件増加となっています。これは、1 日平均およそ 12 件出場したことになります。

救急出場件数を事故種別ごとにみると、急病が 2,831 件で 63%と 6 割以上を占め、次いで一般負傷 633 件で 14%、交通事故 462 件で 10%の順となっています。

搬送人員については 4,277 人で、前年に比べて 14 人の増加となりました。これは、管内の住民およそ 23.5 人に 1 人が救急車によって搬送されたこととなります。

| 救急の概要 | 平成 21 年 | 平成 20 年 | 増 減 | |
|----------|---------|---------|-------|-----|
| 事故種別 (件) | 火 災 | 14 | 7 | 7 |
| | 自然災害 | 0 | 0 | 0 |
| | 水 難 | 4 | 2 | 2 |
| | 交 通 | 462 | 497 | △35 |
| | 労働災害 | 105 | 104 | 1 |
| | 運動競技 | 23 | 18 | 5 |
| | 一般負傷 | 633 | 640 | △7 |
| | 加 害 | 27 | 20 | 7 |
| | 自損行為 | 53 | 47 | 6 |
| | 急 病 | 2,831 | 2,811 | 20 |
| | その他 | 329 | 331 | △2 |
| | 合計 | 4,481 | 4,477 | 4 |

3 救助概要

平成 21 年中における救助出場件数は 54 件であり、前年に比べ 3 件減少しました。救助出場件数を事故種別ごとにみると、交通事故が 37 件で 69%を占め、次いで水難事故が 5 件で 9%、建物などによる事故が 3 件で 5%となっています。

| 救助の概要 | 平成 21 年 | 平成 20 年 | 増 減 | |
|----------|-----------|---------|-----|----|
| 事故種別 (件) | 火 災 | 1 | 0 | 1 |
| | 交通事故 | 37 | 43 | △6 |
| | 水難事故 | 5 | 2 | 3 |
| | 機械による事故 | 2 | 2 | 0 |
| | 建物などによる事故 | 3 | 4 | △1 |
| | その他 | 6 | 6 | 0 |
| | 合計 | 54 | 57 | △3 |

問い合わせ

◆火災関係
消防本部予防課
電話 24-9105 FAX 24-9111



◆救急救助関係
消防本部消防救急課
電話 24-9116 FAX 24-9111



コミュニティ助成事業

(財) 自治総合センターでは、宝くじの普及広報事業の一環として、住民が行うコミュニティ活動を支援するため、コミュニティ助成事業を行っています。



**宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。**

宝くじは、広く社会に役立てられています。

外山区では、この助成を受けて外山子供広場の劣化した防球ネットの張替と夜間照明施設を整備しました。

【問い合わせ】

本庁農村整備課
☎ 22-9668
FAX 22-9674



都美恵の里郷土芸能保存会（都美恵太鼓）では、この助成を受けて太鼓5台と収納ケースを購入しました。新調した太鼓で子どもたちが楽しく練習を始めました。新しい太鼓を持って地域のお祭りやイベントなどに出かけ、地域コミュニティの活性化の一助となるよう活発な活動を進めています。

【問い合わせ】

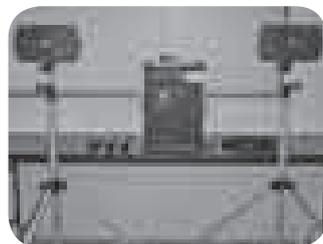
伊賀支所総務振興課
☎ 45-9111
FAX 45-9120



阿保地区住民自治協議会では、この助成を受けて地域活動に必要なテントやポータブルアンプ、草刈機、プロジェクターなどを購入しました。今後は地域でのイベント活動や環境美化活動、住民研修などに有効活用を図っていきます。

【問い合わせ】

青山支所総務振興課
☎ 52-3224
FAX 52-2174



(財) 日本防火協会助成事業

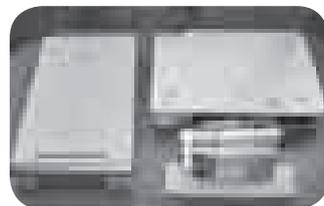
防火・防災訓練などに活用します！

(財) 日本防火協会では、宝くじの普及広報事業の一環として、民間防火組織などの育成強化を図るための助成を行っています。

市はこの助成事業を利用して防火・防災の意識高揚を図り、災害に強い人づくり、まちづくりに役立てるため、プロジェクターやデジタルビデオカメラなどの視聴覚資器材を購入し、出前講座や講習会、訓練などに活用します。

【問い合わせ】

本庁総合危機管理室
☎ 22-9640
FAX 24-0444



冬の省エネについて



地球温暖化を防止するために、温室効果ガス（二酸化炭素など）をなるべく出さないよう、さまざまな取り組みがされています。温室効果ガスは、大きな工場やトラックなど産業部門が大量に排出しているイメージがありますが、一般家庭から排出されるものも大きな割合を占めています。平成18年度に改定された三重県地球温暖化対策推進計画によると家庭からの排出割合は9%（全国では13%）となっており、増加傾向にあります。その中でも、冬場は暖房機器の使用により大量のエネルギーを使用します。そのため、この冬場に各家庭で省エネに取り組むことはとても重要です。暖房機器ではエアコンやファンヒーターの設定温度を1度下げたり、部屋の保温効果を高めるために厚手のカーテンに変え

てみたり、お風呂の湯が冷めないように保温材の活用やなるべく続けて入浴してはいかがでしょうか。※詳しくは(財)省エネルギーセンターHP、「家庭の省エネ大辞典」をご覧ください

また、現在伊賀市地球温暖化対策実行計画書区域施策編の作成に取り組んでおり、昨年末から市内の現状把握をするために一般家庭2000世帯および事業所などにアンケート調査を実施しました。今後は、この調査結果を市の温室効果ガス削減目標の設定や取り組みを検討するために活用していきます。

【問い合わせ】 本庁環境政策課
☎ 22-9637
FAX 22-9641

